

Strategies for IELTS Speaking

IELTS対策基礎コース (Band 4.5-5.5)
スピーキングテスト 対策

テキスト p116

IELTS スピーキングテストの概要 – 形式とテストの流れ

面接形式: 面接官との1対1

テストの流れ: 約11分～14分

	内容
イントロダクション (30秒)	名前、国籍、本人確認 (パスポート) ※イントロダクションは、評価に含まれない。
パート1 インタビュー (3.5～4.5分)	<ul style="list-style-type: none">・自分自身についての質問 (2～4問)・関連しない2つの一般的なトピック 各4問・受験者自身の経験や好みに関する質問が多い。・「人々は」というような社会的な質問もあるが、「個人として」の考えや意見を述べればよい。
パート2 スピーチ (3-4分)	<ul style="list-style-type: none">・トピックが書かれたカードとともに、紙と鉛筆が渡される。・1分間で準備する。(紙にメモ)・1分以上、2分までの間で、受験者自身の経験を基にしたスピーチをする。(1分未満は低スコア)・スピーチの後、試験官がスピーチに関する質問を1つか2つするので答える。
パート3 ディスカッション (4-5分)	<ul style="list-style-type: none">・パート2のトピックに関連する、社会的なトピックについてのディスカッション・1つのトピックについて、2つから3つのサブカテゴリに分かれて質問される。

次のパートに移るタイミングは試験官が決める。“Thank you.”と言われたら、次の質問を待つ。

IELTS スピーキングテストの概要 – 評価基準

スピーキングテストは次のような評価基準で評価される。パートごとではなく、スピーキングテスト全体を通しての評価。

評価基準	説明	ポイント
Fluency and Coherence (話の流暢さと論理的ー貫性)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションとして自然なテンポで会話ができるか。 意見やアイデアを論理的に組み合わせながら話せるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 言いよどみが少ない。 内容に矛盾がない/論理的。 つながり表現を正確に使える。
Lexical Resource (語彙の豊富さと適切さ)	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い語彙を使っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> トピックや文脈に適した語彙 言い換え
Grammatical Range and Accuracy (文法の幅広さと正確さ)	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い文法を使っているか。 意味が伝わらなくなるような文法的まがいはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な構文 (比較/仮定法/助動詞/受動態/接続詞) 時制
Pronunciation (発音)	<ul style="list-style-type: none"> どの程度聞きやすい英語か。(発音の明確さ、話のリズム、抑揚など) 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の単語だけでなく、文全体で自然な発音
採点方法 *話す時間の不足は全体スコアに影響する。できるだけ2分話す。	それぞれ1-9までの0.5点刻みで採点。平均が最終スコアとなる。 例: <流暢さと一貫性> 6.0 <語彙> 5.0 <文法> 5.0 <発音> 6.0の場合 $(6+5+5+6) \div 4 = 5.5$ となる	

IELTS スピーキングテストの攻略法 9つ

1. 笑顔でコミュニケーションを楽しむ

- 試験官は、受験者の態度や発言に応じて態度を変えてはならないため、少しぶつきらほうな感じの場合がある。
- 試験官と目を合わせて、笑顔を忘れずに試験に臨む。(自信がなさそうな態度はマイナス、フレンドリーすぎるのも良くない)

2. 伝わるように話す

- 試験官の顔を見ながら、自分の意見や主張、経験を伝える気持ちで話す。焦らない。
- 早口過ぎるのも、慎重すぎてゆっくり過ぎるのもよくない。試験官が聞き取りやすいスピードとはっきりとした発音で話す。

3. 積極的に話を広げていく (たくさん話す)。

- 質問への直接の答えだけでなく、必ず理由や具体例を加えて、自発的に話を展開していく。
- パート1は2-3文、パート3では4-6文で答える。

4. 難しく考えすぎない

- 受験者の意見が正しいか、素晴らしいかは採点されない。トピックに沿って、自分が話しやすい内容で話す。
- 家族や他人のことを、自分のこととして話しても大丈夫。

5. わからないときには、思いつく限り話す

- 試験官はトピックを変えることはできないので、あまり詳しくないことを伝えて、「～についてはよくわからないが～だと思う」「～をした経験はないが、今後挑戦してみたい」など、思いつく限りのことを話す。ネガティブな発言でも問題ない。

IELTS スピーキングテストの攻略法 9つ

6. ストップされても問題ない

- パート2のスピーチの途中で、試験官に “Thank you” と止められることがあるが、制限時間を越えたためで問題ない。
- 他のパートでも長すぎると途中で遮られることがあるが気にしない。ただし、必ず最初に質問の答えを明確に述べること。

7. うまく時間をかせぐ

- 英語の会話では「沈黙」は避けたい。考えるときには、**Let me think, Let me see, Well ..., I haven't thought about it before ...**のような英語の言い回し(フィラー)を使って時間をかせぐ。
日本語の「あー」「うーん」「えー」「えっと～」は日本語としてカウントされるので避けること。ただし、**uh ..[ə:]**は英語のフィラー。

8. 質問がわからないときは、聞き返す。

- **“I'm sorry but could you repeat the question, please?”** (繰り返してもらえますか) ”
“Could you rephrase your question, please?” (別の言い方で言ってもらえますか) ”

9. 幅広い文法や語彙を活用する

- 文法や語彙は評価に直結するので、無難に答えるだけでなく、知っている範囲でさまざまな語彙や文法を使ってみる。
- 高いレベルの語彙や文法を使おうとしてミスしても、それほど影響しない。

※ 前もって暗記したものを暗唱するような不自然な会話は無得点